

統 計 茨 城

昭和44年 6・7 月号

目 次 CONTENTS

I 就任のごあいさつ..... 1	7 家 計..... 13
離任のごあいさつ..... 1	III 統計ろんだん..... 16
II 指 標	IV 県内の産業（その40）..... 17
主要経済指標..... 2	V 県内小売店とセルフ店の一考察（2）19
1 人 口..... 4	VI 昭和43年就業構造基本 調査結果の概要..... 20
2 金 融..... 6	
3 農 業..... 8	
4 鉱 工 業..... 9	
5 労 働..... 10	
6 物 価..... 12	

利用上の注意 Note for Users

1. 本書中の数値は原則として単位未満は四捨五入。
2. 年度は4月から3月まで。
3. 記号

— 零または該当数字のないもの。	r 訂正数字、
0 該当数字が掲載単位未満のもの。	△ 減少または支払を示す。
… 不詳のもの。	x 統計保護のため掲載をひかえたもの
p 暫定数字。	

就任のごあいさつ

県統計課長 田口源治



このたび、統計課長を命ぜられ、同時に県統計協会副会長に就任いたすことになりました。

もとより統計事務の分野は初めてであります、かねてから統計が各種の行政施策の基礎と

して重要な役割をもっていることは承知いたしております。しかし実際にこの職についていかに統計が私達の生活に密接不可分なものであり、統計と経済、社会生活との強いつながりを、改めて痛感いたしております。

また統計が一般に理解と認識をもたれ私達の日常生活に広くそして深く浸透しておりますことも力強い限りであります。

まして、情報化時代といわれる現今、政治、経済、社

会、文化等にあらゆるものが変動してやまないときに真実性のある、時宜をえた、スピーディな統計データが必要不可欠となっておりますことは当然のことであります。

しかもこれらの礎はなんと申しまして「統計体系の整備」と「統計の真実性の確保」が二大支柱となると思いますがこの2つが、石崎前課長をはじめ、先輩諸氏のなみなみならぬご努力により、着々理想的方向へ進んでまいったことを感謝しております。

本年度は、事業所調査、国勢調査調査区設定、全国消費実態調査、世界農林業センサスなど大きな調査が行なわれる年であります。微力ながら、これから懸命に、与えられた職務に努力いたしたいと思っております。どうか今後とも先輩各位に寄せられたと同様、みなさまのご指導、ご支援を心からお願い申し上げます。

離任のごあいさつ

鹿行県民室長兼鹿行農林事務所長 石崎百世



6月1日付をもちまして、鹿行県民室長兼鹿行農林事務所長を拝命し、統計課長と県統計協会副会長の職を去ることになりました。

統計の仕事を担当して、約3年の間大過なく職務を全うできましたことは、先輩各位、市町村統計関係者、統計調査員のみなさんの公私にわたる暖かいご支援と、ご助言によるものであり、深く感謝申し上げます。

顧みますれば、昭和41年7月1日就任いたしまして以来、各種の重要な調査、県および市郡町村の統計大会、行政資料の集中管理を目途とした行政資料室の設置、統計報告調整規程の制定等のことが次々と思ひ起こされまして、誠に懐かしく思われます。

また在職中、いろいろ私なりに考えたことや、みなさんから寄せられたご希望ご要望のことなどで実現し得な

かつたことを全く残念に思い心残りを感じております。しかし、幸にも後任に田口課長を迎え安心して後事を託すことができますことをうれしく存じております。

統計課時代つくづくと感じましたことは、統計が国、県、市町村はもとより、企業、学校、研究機関等の企画・立案・運営・経営・研究等にとつて、極めて重要なものであり、統計なくしてこれらのことが一つだになし得ないということでありました、こんごこの重要度はますますあらゆる分野で、如実に示されるものと確信いたしております。

この重要な職務にあたられる統計関係者のみなさんは、その責務をさらに深く自覚し、高い誇りをもつて本県統計の進歩と発展に、より一そうご努力を重ねられますことを願つて止みません。

最後に在職中、微力な私に寄せられましたみなさんの数々のご厚誼に対し、重ねてお礼申し上げます。

1 主要経済指標

主 要 経

Key

茨 城 県

年月	財政資金 対民間収 支尻	銀行勘定		銀行券	手形交換高		不渡手形		株式	県民所得	
		預金	貸出金	増減	枚数	金額	枚数	金額	取引高	分配所得	個人支出
昭和35年	百万円 15,581	百万円 75,617	百万円 51,718	百万円 2,937	千枚 198	百万円 70,264	枚 2,493	百万円 180	百万円 33,319	百万円 190,036	百万円 150,658
36	14,468	94,148	67,838	2,687	230	75,303	2,535	152	48,336	227,341	165,153
37	23,402	118,285	83,675	1,625	274	88,699	4,808	279	60,230	262,695	184,695
38	△25,800	141,041	102,665	△ 998	311	101,448	5,974	319	40,999	291,117	208,928
39	△32,758	165,627	112,699	△ 5,614	355	142,640	8,828	796	19,485	323,856	229,828
40	△37,458	185,609	8,595	△ 6,228	380	147,872	10,404	847	34,770	356,751	259,164
41	△42,214	217,545	123,688	△ 179	436	163,444	9,901	835	46,590	※383,100	※295,954
42	△54,001	266,236	146,606	40	484	197,977	8,318	873	40,313	※440,407	※337,489
43	△46,293	311,421	166,962	4,517	533	226,801	9,872	1,121	78,315	※534,109	※385,515
44・1	6,519	305,650	166,147	△10,499	41	20,899	694	79	7,777	—	—
2	3,318	307,160	168,064	362	42	17,861	708	75	5,339	—	—
3	△ 2,989	318,734	174,937	4,108	45	20,681	723	83	7,299	—	—
4	△ 6,801	320,901	170,875	△ 175	44	22,524	769	96	11,267	—	—
5	3,494	323,408	172,548	△ 2,006	46	20,692	836	90	16,008	—	—
6	△ 5,588	325,996	178,520	4,720	50	22,347	750	78	12,867	—	—

※は
—新
—推
—計
—に
—よ
—る。

全 国

年月	財政資金 対民間 収支尻	全国銀行主要勘定		全国銀行貸出	銀行券	手形交換高		不渡手形	
		預金	貸出金	約定平均金利	発行高	枚数	金額	枚数	金額
昭和35年	億円 ○△ 51	億円 888,722	億円 81,826	日歩銭(%) 2.239(8.17)	億円 12,341	千枚 203,728	億円 669,673	千円 2,172	億円 1,852
36	○ 4,909	103,324	97,701	2.191(8.00)	14,801	221,016	862,205	2,121	2,084
37	○△2,033	121,187	114,946	2.250(8.21)	17,459	242,368	1,016,246	2,525	2,805
38	○△ 614	156,481	145,626	2.133(7.79)	20,574	265,933	1,189,982	2,878	3,492
39	○△4,392	178,462	168,297	2.164(7.90)	22,988	290,466	1,431,042	3,726	5,271
40	○△2,662	206,531	192,175	2.137(7.80)	25,638	302,975	1,510,970	4,077	5,574
41	○ 2,220	237,900	220,460	2.049(7.48)	29,135	327,352	1,646,702	3,830	5,540
42	○ 752	266,671	253,230	2.004(7.31)	34,115	346,690	1,885,942	3,746	6,435
43	○△3,530	310,123	290,328	2.043(7.46)	40,419	364,011	2,252,989	3,752	7,371
44・1	6,133	299,998	290,625	2.018(7.37)	34,188	25,825	184,645	233	384
2	2,355	310,372	293,010	2.017(7.36)	35,072	28,846	182,878	249	435
3	△1,694	315,319	298,636	2.016(7.36)	36,363	30,686	215,007	283	519
4	△4,296	314,351	298,692	2,017(7.36)	36,670	30,322	213,849	281	532
5	1,260	319,921	302,586	2.016(7.36)	35,160	31,892	206,507	291	521
6	1,171	322,801	307,933	2.015(7.35)	38,286	33,164	212,972	260	475

注) ○印は会計年度

濟 指 標

Statistics

年月	百貨店 売上高	鉱工業 生産指数 (総合)	建 築 着 工		賃金指数	雇用指数	消費者 物価指数 (水戸・総 合・平均)	勞 働 市 場		
			工 事 費 予 定 額	床 面 積				新規求職 人	新規求人	失業保險被 保險者総数
昭和35年	百万円 —	66.9	千円 11,169,680	m ² 910,191	66.1	68.4	—	—	—	—
36	2,975	84.7	12,669,633	10,036,549	70.5	86.2	—	40,616	64,919	191,435
37	3,354	84.4	16,089,121	1,149,383	74.9	100.0	—	46,273	46,079	198,261
38	3,770	92.3	20,244,396	1,297,261	83.1	103.6	88.7	43,615	51,423	203,670
39	4,341	97.0	22,550,772	1,419,231	90.1	105.9	91.5	43,724	55,018	223,904
40	4,799	100.0	27,632,474	1,581,326	100.0	100.0	100.0	42,433	42,684	224,096
41	5,472	110.8	31,318,999	1,746,158	113.3	93.5	104.4	41,509	54,048	230,225
42		135.8	49,094,168	2,522,788	130.3	94.2	107.9	41,518	70,569	241,722
43	8,686	r149.3	78,198,065	3,389,074	154.6	103.6	115.0	40,193	68,331	254,759
44. 1	733	147.8	百万円 5,053	千m ² 222	130.9	107.6	118.7	3,836	6,548	254,224
2	952	168.4	6,040	264	127.0	107.2	119.0	3,419	5,559	254,539
3	964	176.4	6,882	329	133.7	107.9	120.0	3,842	5,949	256,718
4	848	168.4	7,277	317	128.3	110.4	p120.9	3,332	7,325	263,344
5	721	149.3	8,714	369	143.2	109.7	p121.2	3,326	5,819	267,794
6	895	—	8,627	362	270.2	109.8	p121.8	3,004	5,938	270,712

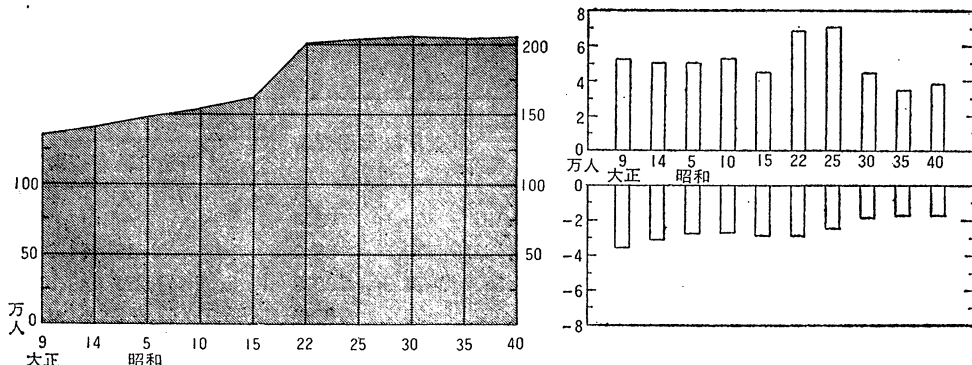
年月	国 民 所 得		百貨店 売上高	鉱工業 生産指数 (総合)	建 築 着 工		賃金指数 (名目・ 製造業)	雇用指数 (常用・ 製造業)	消 費 者 物 価 指 数 (東京区 部)	失業保險 被保險者 総 数
	純 生 産	分 配 所 得			工 事 費 予 定 額	床 面 積				
昭和35年	10億円 13,269	10億円 ...	億円 4,075	57.8	億円 8,089	千m ² 61,461	61.8	74.3	74.0	千人 12,385
36	15,755	...	5,006	69.0	12,077	76,872	68.9	83.5	77.9	13,872
37	17,730	...	5,818	74.7	13,822	76,645	75.4	89.5	83.0	15,264
38	20,607	...	6,788	83.3	16,259	86,835	83.2	93.1	89.6	16,235
39	23,329	12,765	7,701	96.4	22,602	102,663	92.0	97.8	93.3	17,349
40	26,000	14,742	8,602	100.0	22,558	102,300	100.0	100.0	100.0	18,035
41	30,273	16,962	9,563	113.2	24,642	109,737	111.6	100.4	104.8	18,614
42	35,792	19,025	11,047	135.2	33,282	137,398	126.7	102.5	109.1	19,337
43	32,250	...	r12,839	r159.2	42,889	160,469	146.6	105.4	115.2	20,064
44. 1			844	160.2	3,324	11,706	123.3	p105.7	117.6	19,726
2	858	172.0	3,550	12,305	121.4	p105.3	117.9	19,689
3			1,210	183.7	3,500	12,610	122.0	p106.3	119.1	—
4			1,108	179.3	4,483	15,661	r127.0	p110.0	120.6	—
5	1,047	178.8	4,688	15,593	133.5	p109.5	120.2	—
6			1,072	...	4,789	16,719	207.9	p109.3	120.4	—

※国民所得は年度数值

1 人 口 Population

図 総人口の推移

出生と死亡の推移



1-1 人口、世帯および人口移動

年 月 日	世帯数	人 口			人 口 移 動				
		総 数	男	女	増減数	自 然 動 態		社 会 動 態	
						出 生	死 亡	転 入	転 出
大正9年 10月 1日	世帯 269,860	人 1,350,400	662,128	688,272	—	52,291	35,960	—	—
〃 14. 10. 1	276,120	1,409,092	693,837	715,255	△38,225	50,937	31,034	△58,128	
昭和5. 10. 1	279,895	1,487,097	734,059	753,038	△31,427	50,445	27,308	△54,564	
〃 10. 10. 1	286,471	1,548,991	766,423	782,568	23,811	53,532	27,274	△ 2,447	
〃 15. 10. 1	287,677	1,620,000	801,914	818,086	26,260	45,148	29,101	9,853	
〃 22. 10. 1	376,758	2,013,735	974,289	1,039,446	72,902	69,164	28,475	32,213	
〃 25. 10. 1	375,861	2,039,418	933,694	1,045,724	△20,643	60,325	24,784	56,184	
〃 30. 10. 1	382,315	2,064,037	1,006,093	1,057,944	6,315	44,592	18,732	△19,545	
〃 35. 10. 1	409,465	2,047,024	1,000,184	1,046,840	251	35,664	17,709	△17,704	
〃 40. 10. 1	447,871	2,056,154	1,007,852	1,048,302	14,816	38,357	16,888	90,715	105,531
〃 44. 5. 1	479,733	2,098,521	1,031,670	1,066,851	5,259	2,984	1,356	19,782	16,151
〃 44. 6. 1	431,184	2,100,873	1,033,166	1,067,707	2,287	2,936	1,222	10,000	9,427

資料：県統計課

1-2 市町村別人口

(単位：人)

年月	昭和35年 10月	40年10月	43年6月	44年6月	年月	昭和35年 10月	40年10月	43年6月	44年6月
水戸市	139,389	154,983	165,034	168,979	水海道市	37,577	36,584	35,975	36,269
日立市	161,226	179,703	185,405	187,937	常陸太田市	38,541	36,974	36,456	36,254
土浦市	71,474	78,971	84,431	86,912	勝田市	43,286	52,625	59,200	62,104
古河市	42,474	50,202	52,797	53,672	高萩市	32,816	32,497	31,179	30,023
石岡市	34,758	36,789	38,042	38,483	北茨城市	60,507	55,334	51,284	49,931
下館市	51,257	51,717	52,938	53,525	笠間市	32,143	31,082	30,482	30,239
結城市	38,060	38,078	38,468	38,947	東茨城郡	134,192	128,687	128,110	128,290
竜ヶ崎市	33,581	34,917	36,180	36,824	常澄村	9,850	9,393	9,099	9,001
那珂湊市	34,522	33,620	33,443	33,377	茨城町	30,845	29,439	29,080	28,882
下妻市	30,011	28,260	27,450	27,405					

年月 市町村名	昭和35年 10月	40年10月	43年6月	44年6月	年月 市町村名	昭和35年 10月	40年10月	43年6月	44年6月
小川町	15,762	15,447	16,214	17,197	阿見町	22,326	23,390	23,846	23,901
美野里町	14,680	14,381	14,716	14,916	牛久町	16,131	17,203	17,983	18,539
内原町	12,921	12,695	12,784	12,748	荃崎村	6,338	6,253	6,348	6,353
常北町	11,832	11,154	11,087	11,233	新利根村	9,489	8,943	8,693	8,631
桂村	8,785	7,938	7,525	7,340	河内村	13,065	12,158	11,641	11,541
御前山村	7,227	6,425	5,942	5,837	桜川村	8,900	8,178	7,965	7,824
大洗町	22,290	21,815	21,663	21,136	東村	14,121	13,280	12,778	12,674
西茨城郡	59,662	58,685	58,618	58,679	新治郡	83,382	79,312	77,853	77,795
友部町	19,007	19,714	20,085	20,245	出島村	18,260	16,861	16,298	16,194
岩間町	13,656	13,719	13,722	13,783	玉里村	5,233	5,080	5,091	5,082
七会村	4,029	3,469	3,257	3,140	八郷町	30,670	28,741	27,000	26,707
岩瀬町	22,970	21,783	21,554	21,511	千代田村	11,620	11,451	12,167	12,515
那珂郡	105,533	103,571	103,401	105,021	新治村	8,400	8,240	8,334	8,290
東海村	13,978	16,565	18,099	18,450	桜村	9,199	8,939	8,963	9,007
那珂町	30,556	30,006	30,519	30,940	筑波郡	89,642	84,937	83,836	83,830
瓜連町	6,988	6,832	6,768	6,854	谷田部町	20,570	20,093	19,995	20,122
大宮町	24,594	23,635	23,188	24,363	伊奈村	12,010	11,241	11,075	11,012
山方町	13,016	11,805	11,110	10,976	谷和原村	10,746	10,062	9,660	9,825
美和村	8,364	7,515	7,103	7,115	豊里町	11,165	10,497	10,255	10,201
緒川村	8,037	7,213	6,614	6,323	筑波町	23,817	22,091	22,024	21,850
久慈郡	74,230	67,875	64,230	63,524	大穂町	11,334	10,953	10,827	10,820
金砂郷村	14,748	13,554	12,636	12,829	真壁郡	76,660	73,394	72,457	72,772
水府村	11,636	10,580	9,825	9,641	関城町	14,979	14,368	14,130	14,166
里美村	7,668	6,980	6,626	6,401	明野町	17,513	16,682	15,983	16,119
大子町	40,178	36,761	35,143	34,653	真壁町	21,959	20,809	20,805	20,749
多賀郡	11,006	10,346	9,901	10,319	大和村	8,064	7,522	7,340	7,395
十王町	11,006	10,346	9,901	10,319	協和町	14,145	14,016	14,199	14,343
鹿島郡	118,457	113,010	113,990	118,872	結城郡	52,189	49,080	48,110	47,995
旭村	11,747	10,759	10,434	10,381	八千代村	24,438	22,687	22,263	22,136
鉾田町	28,657	26,939	27,837	27,758	千代川村	8,447	7,912	7,746	7,819
大洋村	10,212	9,331	8,734	8,721	石下町	19,304	18,481	18,101	18,040
大野村	10,679	9,779	9,372	9,280	猿島郡	119,892	117,272	117,914	119,222
鹿島町	16,132	16,305	17,440	20,073	総和町	20,703	21,023	21,560	22,399
神栖村	16,326	15,820	15,987	18,186	五霞村	9,157	8,668	8,580	8,614
波崎町	24,704	24,077	24,186	24,473	三和町	19,269	18,380	18,311	18,430
行方郡	72,016	68,169	66,475	66,426	猿島町	14,810	14,053	13,581	13,558
麻生町	20,182	18,852	18,120	17,984	猿岩井町	33,366	33,459	33,574	33,820
牛堀町	6,796	6,466	6,340	6,381	境町	22,587	21,689	22,308	22,401
潮来町	17,671	17,111	17,056	17,281	北相馬郡	55,916	59,398	65,132	67,791
北浦村	12,401	11,611	11,175	11,107	守谷町	11,449	11,475	11,674	11,775
玉造町	14,966	14,129	13,784	13,673	取手町	22,582	26,179	30,068	32,093
稻敷郡	112,565	110,082	109,233	109,456	藤代町	12,606	13,002	14,820	15,466
江戸崎町	13,017	12,266	11,788	11,733	利根町	9,279	8,742	8,570	8,457
美浦村	9,178	8,411	8,191	8,260					

資料：県統計課

2 金 融 Money & Banking

図 金融機関預金残高 (茨城)

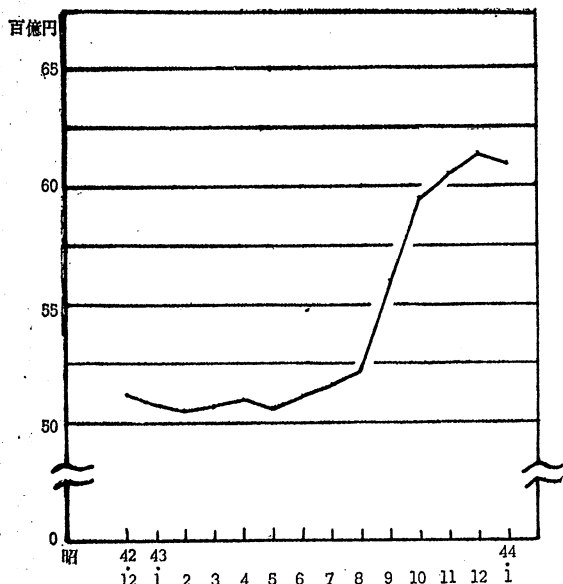
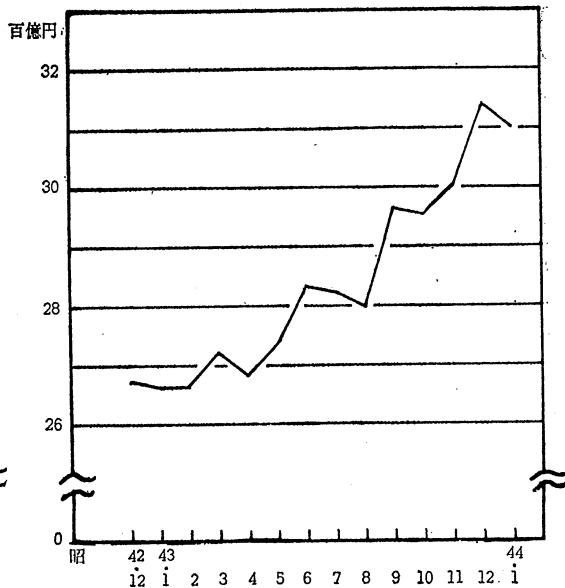


図 金融機関貸出金残高 (茨城)



2-2 金 融 機 関 預 金

年 月	総 額				銀 行		相 互 銀 行		信 用 金 庫	
	預 金	対前年 同月比	貸 出 金	対前年 同月比	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金
昭和41年12月	419,678	—%	272,774	—%	214,900	122,899	33,408	24,311	29,528	21,613
42・12	528,462	124.2	267,314	124.1	263,868	145,822	40,777	29,314	37,278	28,129
43・5月末	519,172	—	273,921	—	269,566	145,443	40,654	30,481	37,300	30,558
6	528,607	122.1	283,023	116.6	273,551	150,531	42,065	31,302	38,259	31,412
7	537,837	122.1	282,213	119.0	274,794	150,446	42,243	31,816	38,456	31,958
8	545,376	121.5	280,374	115.3	275,323	148,017	42,768	30,580	39,209	32,728
9	571,579	121.7	296,789	125.7	289,820	156,120	44,936	33,955	39,737	32,977
10	590,862	122.7	295,786	126.2	290,473	155,811	44,728	33,176	39,615	32,578
11	611,157	121.5	302,499	126.4	300,805	158,675	45,957	34,415	41,268	34,179
12	638,897	125.2	314,075	120.5	308,167	166,079	50,166	36,091	44,047	32,435
44年 1月	621,638	123.3	310,087	121.6	300,197	165,329	48,796	35,947	43,491	32,041
2	—	—	—	—	301,808	165,811	48,716	37,112	43,526	32,353
3	—	—	—	—	317,315	173,905	50,915	37,001	44,700	33,078
4	—	—	—	—	315,548	169,943	50,381	37,938	45,295	33,617
5	—	—	—	—	318,157	171,334	51,124	38,103	45,693	37,696
6	—	—	—	—	323,396	177,179	52,547	38,659	46,385	38,428

資料： 大蔵省水戸財務部

2-1 業種別貸出先数および貸出残高 (茨城) (単位:百万円)

業種別	40年3月		41年3月		42年3月		43年3月		44年3月	
	貸出先数	金額	貸出先数	金額	貸出先数	金額	貸出先数	金額	貸出先数	金額
合計	36,375	114,351	39,406	120,393	44,200	126,230	49,636	146,887	58,968	173,862
製造業	5,413	56,255	5,725	57,764	5,736	54,176	5,960	60,322	6,319	68,908
食料品	1,583	7,557	1,549	8,153	1,489	9,218	1,448	10,407	1,446	11,364
繊維品	576	4,225	575	4,346	595	3,621	631	4,148	687	4,396
木材・木製品	1,007	3,271	1,080	3,062	1,099	3,692	1,111	4,626	1,106	5,221
化学工業	88	5,956	89	6,566	80	5,842	77	6,167	91	7,548
非鉄金属	19	3,792	35	4,237	20	4,372	35	4,629	32	5,607
電気機械器具	332	13,196	396	12,939	370	9,251	10,196	10,196	453	11,913
輸送用機械器具	53	4,327	69	4,739	65	4,943	5,727	5,727	75	6,100
農業	9,527	2,213	9,800	2,228	11,027	2,956	12,641	3,557	14,885	4,745
林業	40	113	35	82	44	87	44	131	63	166
漁業・水産養殖業	176	1,475	176	1,582	191	1,373	215	1,753	219	1,987
鉱業	142	3,622	132	3,831	135	2,873	122	3,047	144	3,495
建設業	927	3,765	1,179	3,676	1,323	4,344	1,714	5,561	1,993	7,038
卸売小売業	11,029	27,278	11,406	30,130	12,557	36,939	12,886	44,069	13,075	51,429
卸売	2,110	15,228	2,172	17,094	2,267	20,536	2,169	22,906	2,295	25,615
小売	8,919	12,050	9,234	13,036	10,290	16,403	10,717	21,163	10,780	25,814
金融・保険業	47	2,143	48	1,544	46	1,303	51	1,118	57	1,419
不動産業	105	4,538	134	5,684	150	5,496	210	6,859	262	9,152
運輸通信業	420	3,007	504	2,537	497	2,229	555	2,366	591	3,183
電気・ガス・水道業	4	159	6	235	6	158	8	314	15	286
サービス業	2,240	6,620	2,518	7,008	2,899	8,199	3,466	9,960	4,078	11,722
その他	6,305	3,163	7,743	4,092	9,589	6,097	11,764	7,830	17,267	10,332

資料：日本銀行統計局

貸出残高 (茨城)

(単位:百万円)

年月	信用組合		農協		農林中金・商工中金		労働金庫		郵便局
	預金	貸出金	預金	貸出金	預金	貸出金	預金	貸出金	預金
昭和41年12月	19,911	17,494	42,232	15,259	18,055	9,362	2,865	1,786	59,822
42・12	26,444	22,101	54,485	18,292	22,421	10,669	3,697	2,296	73,602
43・5	25,395	22,658	46,751	22,504	15,742	12,494	3,654	2,194	77,617
6	26,119	22,742	45,414	23,793	15,575	13,804	3,902	2,246	79,646
7	24,461	23,307	45,638	24,696	17,316	10,714	4,016	2,320	81,974
8	26,740	23,324	50,657	25,385	18,515	10,908	4,088	2,317	83,935
9	28,419	24,165	55,071	25,411	21,665	11,115	4,057	2,360	83,488
10	27,862	24,049	63,744	24,749	30,325	11,306	4,052	2,470	85,315
11	28,520	24,515	67,183	23,715	32,203	11,351	4,161	2,599	86,353
12	32,120	26,142	72,884	25,533	31,124	11,909	4,554	2,776	91,318
44年1月	29,830	25,087	67,389	24,935	28,913	11,665	4,561	2,735	93,883
2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—	—	—	—	—

3 農 業 Agriculture

3-1 農産物の平均販売価格(茨城)

(単位:円)

年 月	うるち米 (玄米60kg)	小 麦 (玄麦3等 程度60kg)	ばれいしょ (男爵10kg)	だいこん (葉付10kg)	生 乳 (飲用10kg)	鶏 卵 (10kg)	肉 豚 (生体10kg)	乳用牛 (めす・生 後4月~6 月ホルス タイン純 種)
昭和40年	6,460	2,042	233	196	385	1,935	2,199	45,615
41	6,350	2,124	266	207	407	1,896	1,910	57,777
42年 9月	6,582	2,500	218	261	...	1,986	2,414	61,000
10	7,155	2,100	277	344	...	1,996	2,470	61,000
11	7,282	2,067	228	229	...	1,992	2,425	61,875
12	7,264	2,067	240	159	...	2,189	2,324	62,875
43年 1	7,255	2,067	250	172	...	2,176	2,243	66,125
2	7,236	2,150	282	176	...	2,355	2,169	66,125
3	7,236	2,150	284	174	...	2,214	2,144	66,125
4	7,633	2,100	483	1,699	2,238	74,333
5	7,467	480	1,710	2,452	76,500
6	7,400	...	150	...	479	1,504	2,573	76,500
7	7,167	3,090	165	...	478	1,710	2,796	74,333
8	7,100	3,080	150	...	478	1,516	2,794	74,333
9	7,500	3,170	484	2,049	3,034	74,333
10	7,567	2,640	...	225	486	1,792	3,091	72,000
11	7,667	2,427	...	130	489	1,957	3,146	73,666
12	7,667	2,393	...	95	491	2,002	2,929	71,067
44年 1	7,783	2,393	493	1,605	2,803	69,733
2	7,850	2,393	494	1,677	2,588	68,000
3	8,083	2,393	498	2,152	2,539	68,000
4	8,350	2,400	486	1,671	2,571	64,667
5	8,350	2,400	484	1,451	2,757	63,333
6	8,450	2,400	375	...	490	1,527	3,022	63,333
7	8,450	3,317	270	...	496	1,655	3,213	63,333
8	8,267	3,317	502	1,463	3,131	62,327

資料:農林省茨城統計調査事務所 (注)昭和43年以後の価格は、それぞれの代表生産地における価格である。

3-2 農 業 用 品 の 購 入 価 格 (茨城)

(単位:円)

年 月	乳用牛 (成畜めす ホルスタ イン純種)	子 豚 (めす・生 後50~70 日中ヨー クシャー)	硫 安 (N21%か ます40kg)	過りん酸 灰 (かます40 kg可溶性 りん酸17 %)	複合肥料 (N8%.P 8%.K5 %30kg)	配合飼料 (成鶏用20 kg粗たん 白15%以 上)	配合飼料 (乳牛用30 kg粗たん 白13%以 上)	パラチ オン剤 (46.6又は 46.7%乳 剤 単位 100cc)
昭和40年	152,701	5,446	800	561	807(40kg)	797	1,028	191
41	171,375	3,904	801	572	710	802	1,024	188
42年 9	203,500	4,900	788	591	623	797	1,015	173
10	205,375	5,382	777	585	614	797	1,015	173
11	206,625	5,800	776	584	613	798	1,015	173
12	216,625	5,927	774	582	612	797	1,015	173
43年 1	218,500	5,527	768	580	613	794	1,015	173
2	219,125	5,382	768	580	613	791	1,015	173
3	219,125	5,391	770	586	615	787	1,009	173
4	247,500	5,700	758	593	625	793	1,078	190
5	250,000	6,300	780	595	671	793	1,078	193
6	255,000	6,500	780	595	671	793	1,078	193
7	255,000	7,500	780	593	690	793	1,078	193
8	255,000	7,500	780	593	670	793	1,078	193
9	255,000	7,500	765	590	667	793	1,078	193
10	251,250	7,800	765	590	667	785	1,078	190
11	251,250	8,300	768	591	670	778	1,078	190
12	246,250	8,600	748	582	666	778	1,078	190
44年 1	247,500	8,400	748	582	666	778	1,178	190
2	247,500	8,200	748	579	615	778	1,078	190
3	246,250	8,200	745	579	615	778	1,078	190
4	233,750	10,000	760	560	615	760	1,070	200
5	228,750	10,325	760	560	615	760	1,070	200
6	233,750	11,250	746	585	618	794	1,072	220
7	235,500	11,250	746	585	618	794	1,055	200
8	223,750	11,875	748	586	624	794	1,055	200

資料:農林省茨城統計調査事務所 (注)昭和43年4月以後の価格は農業地域代表市町村の価格である。
昭和43年4月以後子豚の価格はランドレース(F1ランドレース系)60~90日程度の価格である。

4 鉱工業 Mining & Manufacturing 鉱工業 8

4-1 茨城県鉱工業生産指数（基本指数）

（昭和40年=100）

項目	産業総合	公益事業	鉱工業	鉱業				製造工業	鉄鋼業	非鉄金属工業	金属製品工業
				石炭	炭・亜炭	金属工業	非金属工業				
品目数	129	2	127	10	1	5	4	117	4	7	5
ウェイト	100.0	0.39	99.61	5.48	56.59	28.34	15.07	94.52	1.72	7.31	3.27
昭和35年	67.0	92.6	66.8	87.2	91.0	87.6	54.9	64.9	62.6	52.5	—
36	84.7	89.7	84.6	89.8	92.6	90.9	66.0	84.2	80.4	73.6	—
37	84.5	90.0	84.4	90.3	90.2	98.6	68.6	83.9	80.4	56.6	—
38	92.3	77.9	91.6	92.2	92.6	99.8	76.7	91.5	83.8	72.8	—
39	97.0	95.3	97.1	99.0	95.6	100.4	111.2	92.5	106.8	101.3	—
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	110.8	266.9	110.2	101.2	107.0	104.2	73.7	110.7	117.1	107.7	157.6
42	135.8	617.7	133.9	98.9	99.5	100.6	93.8	135.9	133.9	130.5	173.2
43	149.4	427.8	147.5	92.1	86.7	96.7	103.6	150.8	138.2	134.3	130.7
44.1	147.8	710.7	145.6	91.9	87.1	97.1	100.7	148.7	113.8	146.5	133.3
2	168.4	725.2	166.3	93.4	86.0	103.9	101.5	170.5	138.5	162.8	217.4
3	176.4	815.1	173.9	99.4	92.5	103.1	118.8	178.2	134.2	158.1	206.2
4	168.4	708.2	150.4	101.5	95.9	103.1	119.7	153.3	125.9	148.8	270.4
5	149.3	98.2	149.5	96.8	91.8	99.2	110.0	152.5	123.9	151.9	227.4
6
前月比	95.5	115.1	115.6	97.9	96.5	100.0	100.8	86.0	93.8	94.1	131.1
前年同月比	121.9	106.9	110.6	110.2	110.6	102.9	123.3	110.6	97.5	106.2	233.5

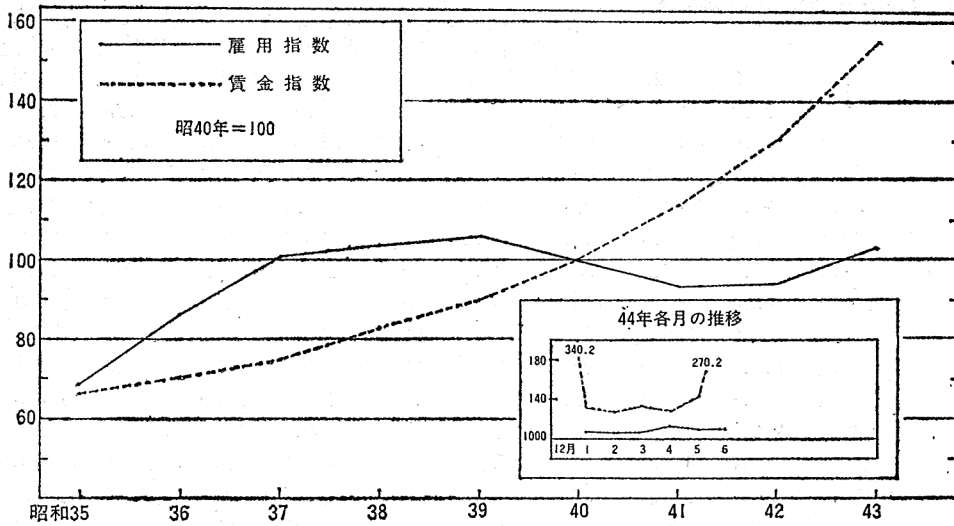
製 造 工 業												
機 械 工 業				窯 業 土 石 製品工業	化学工業	石油石炭 製品工業	皮革工業	パルプ・ 紙・紙加 工品工業	繊維工業	食料品	煙 草	その他
一般機械	電気機械	輸送機械	精密機械									
15	24	5	5	4	11	1	2	3	12	9	1	8
8.48	38.91	2.04	2.69	4.69	2.72	0.18	0.48	1.26	10.55	3.89	1.83	6.80
51.0	71.9	26.0	9.3	85.1	93.3	13.0	37.5	51.2	77.6	75.1	...	43.1
79.4	103.4	50.4	14.5	85.4	99.8	12.5	44.2	61.7	110.4	79.6	...	56.1
74.3	101.9	56.0	60.7	84.1	84.7	12.2	64.6	76.6	128.2	89.4	...	49.2
86.3	104.4	69.5	99.0	85.7	88.0	100.4	82.7	83.0	137.1	92.2	113.7	70.0
101.0	102.2	80.7	120.9	91.8	92.8	97.3	93.1	99.4	110.1	96.4	92.4	75.7
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
105.7	110.3	115.2	108.0	102.1	116.5	93.5	85.8	127.5	98.3	106.9	112.0	115.9
132.3	137.5	147.4	106.0	111.0	121.6	74.7	64.7	144.3	106.3	131.1	191.6	136.4
149.4	176.8	193.6	78.2	124.8	135.2	91.1	71.9	160.8	139.6	149.1	222.8	121.3
169.1	174.4	186.0	72.0	101.4	143.5	102.5	64.8	164.5	124.7	212.1	...	120.0
162.5	194.3	219.2	67.9	134.8	151.7	67.5	56.0	170.7	128.0	201.3	...	110.2
198.9	182.1	225.6	73.1	140.8	157.5	67.0	69.5	183.5	170.3	234.2	...	157.7
236.7	139.1	216.7	73.0	121.9	154.8	65.4	72.8	180.8	171.3	176.7	...	143.9
186.8	149.0	210.5	51.4	99.7	202.9	65.7	73.9	179.0	187.6	176.0	...	145.6
...
119.0	76.4	96.1	99.9	86.6	98.3	97.6	104.7	98.5	100.6	75.4	...	91.2
180.3	88.3	116.5	93.2	96.3	128.7	104.0	116.5	114.7	121.7	136.8	...	108.8

資料：県統計課

5 勞 働 Labor

図 産業別雇用・賃金指数の推移 (茨城)

(昭和40年=100)



5-2 産 業 別 雇 用

年 月	総 合		業 業		建 設 業		製 造 業			
	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金		
		対前年(月) 比較		対前年(月) 比較						
基準年次実数	155,584	...	32,542	...	12,196	37,797	6,047	30,625	103,093	29,999
昭和35年	68.4	...	66.1	...	93.0	60.4	88.9	53.7	60.4	68.2
36	86.2	17.8	70.5	4.4	92.3	66.8	114.7	62.9	82.0	74.6
37	100.6	13.4	74.9	4.4	93.3	71.5	114.6	66.5	101.6	77.3
38	103.6	3.0	83.1	8.2	92.2	83.4	117.9	77.0	102.9	85.4
39	105.9	2.3	90.1	7.0	96.8	91.3	112.9	91.5	105.7	90.2
40	100.0	△5.9	100.0	9.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	93.5	△6.5	113.3	13.3	105.8	107.3	84.3	98.9	93.9	116.2
42	94.2	0.7	130.3	17.0	97.2	119.4	71.7	123.1	98.7	136.1
43	103.6	9.4	154.7	24.4	87.2	139.0	78.2	145.0	112.9	164.0
43. 4月	103.1	2.2	113.0	△2.8	86.9	107.1	65.6	113.0	112.5	119.4
5	100.7	△2.4	123.7	10.7	85.4	111.6	58.6	118.4	109.6	134.1
6	102.2	1.5	227.5	103.8	85.3	173.1	57.4	238.2	111.9	249.8
7	104.6	2.4	176.2	△51.3	85.2	132.3	68.2	141.5	114.7	185.2
8	104.1	△0.5	133.7	△42.5	84.5	172.3	67.2	140.8	114.3	137.0
9	104.2	0.1	129.3	△4.4	83.7	118.9	65.5	136.3	114.7	135.1
10	104.3	0.1	126.7	△2.6	83.3	122.7	65.1	133.8	115.3	133.7
11	106.2	1.9	129.2	2.5	86.1	129.9	87.7	127.6	116.5	137.2
12	108.1	1.9	340.6	211.4	86.9	282.7	90.6	301.8	119.3	355.8
44. 1	107.6	△0.5	130.9	△209.5	86.6	118.7	92.5	112.9	118.7	140.5
2	107.2	△0.4	127.0	△3.9	85.8	125.7	93.3	112.0	118.1	135.0
3	107.9	0.7	133.7	6.7	85.2	150.1	88.5	171.1	118.5	134.4
4	110.4	2.5	128.3	△5.4	...	122.8	...	119.4	120.9	136.4
5	109.1	△0.7	143.2	14.9	...	129.2	...	117.6	...	156.7
6	109.8	0.7	270.2	127.0

資料：県統計課

注) 規模30人以上の事業所

5-1 労働時間 (単位：1人1ヵ月当たり)

年 月	全産業	前月(年) 比較	鉱 業	建設業	製造業	卸 売 小売業	金融・ 保険業	運輸・ 通信業	電気・ ガス・ 水道業	所定内労働時間	
										全産業	製造業
昭和35年	191.5	...	185.6	188.9	195.6	190.9	175.6	186.9	160.4	167.2	165.9
36	190.0	△1.5	184.9	182.1	192.7	189.7	180.4	190.2	159.2	166.1	164.5
37
38
39	193.5	...	199.8	181.2	191.3	192.6	180.1	197.8	178.5	174.9	172.8
40	186.4	△7.1	199.2	174.2	180.7	197.4	166.2	192.1	174.0	172.0	168.0
41	187.2	0.8	201.0	165.7	175.4	195.4	151.8	190.3	166.6	170.7	164.3
42	191.7	4.5	193.8	161.1	196.3	191.6	169.6	194.2	176.0	171.1	174.6
43	194.1	2.4	195.8	172.4	196.5	190.2	165.4	197.0	171.1	171.2	172.5
43.1月	175.8	△18.3	181.0	150.3	175.9	175.6	159.1	189.0	159.3	155.6	155.3
2	195.1	19.3	195.2	142.7	200.7	185.6	157.9	198.7	168.4	171.7	175.5
3	191.3	△3.8	198.2	141.0	194.9	182.5	161.4	208.8	167.4	168.0	170.2
4	199.6	8.3	192.1	160.6	204.3	195.6	163.0	197.5	173.3	176.9	180.2
5	185.2	△14.4	190.7	181.7	183.9	179.6	167.9	195.9	172.8	163.5	162.2
6	205.3	20.1	198.8	179.3	210.3	197.0	164.8	200.3	170.3	182.5	186.0
7	198.7	△6.6	203.7	198.1	199.7	196.2	179.2	198.7	182.3	176.1	175.7
8	187.0	△11.7	185.9	171.0	186.2	188.5	170.7	199.0	172.7	164.8	163.3
9	200.7	13.7	198.1	177.5	204.9	195.1	163.7	195.0	167.1	177.3	180.1
10	188.0	△12.7	199.5	184.2	187.8	187.8	163.5	192.4	175.6	164.6	163.1
11	204.1	16.1	205.3	182.5	208.5	196.5	166.5	195.0	173.0	180.5	183.6
12	198.2	△5.9	200.5	173.4	201.2	202.1	167.4	193.9	170.4	173.5	174.9
44.1	170.7	△17.5	171.0	127.8	168.0	185.0	155.1	188.3	154.6	149.3	146.6
2	194.5	23.8	202.4	151.3	199.4	186.4	153.0	191.6	158.9	170.3	173.7
3	186.6	△7.9	202.0	159.7	188.0	182.6	159.9	187.3	170.2	163.5	164.1

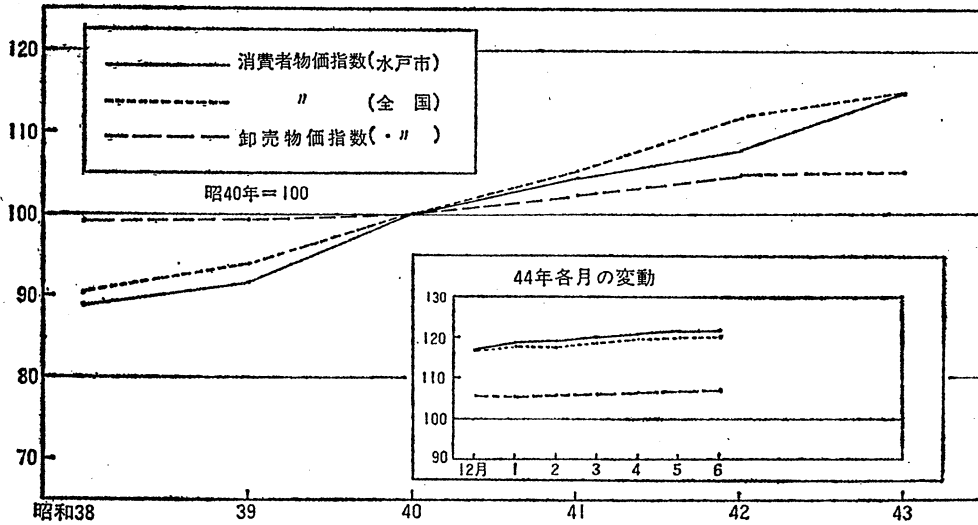
資料：県統計課 注) 規模30人以上の事業所

賃 金 指 数 (茨城) (昭和40年=100)

年 月	卸 売・小 売 業		金 融・保 険 業		運 輸・通 信 業		電 気・ガ ス・水 道 業	
	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金
基準年次実数	7,426	29,061	5,112	41,419	19,012	40,528	1,943	55,638
昭 和 35	96.2	53.9	74.8	57.1	75.7	60.3	92.9	62.4
36	109.7	57.0	84.0	61.1	89.5	66.7	88.7	67.6
37	111.5	60.7	86.9	72.4	99.8	77.4	82.8	72.1
38	110.0	59.9	92.9	79.4	117.3	83.5	76.4	72.1
39	108.7	87.9	103.4	89.5	116.6	90.3	83.5	88.9
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	87.4	99.5	90.7	105.6	82.1	111.6	115.5	115.2
42	92.6	106.9	89.1	111.1	76.0	127.9	122.3	130.2
43	96.4	128.6	99.5	142.4	102.0	145.7	122.7	140.5
43. 4月	107.2	98.5	87.8	95.1	77.0	103.6	124.2	97.8
5	106.2	101.4	88.3	98.4	76.1	104.6	124.8	102.8
6	105.7	169.6	89.9	174.4	76.4	170.8	124.2	312.6
7	104.4	149.9	90.9	161.5	77.5	206.3	123.2	107.1
8	103.2	108.5	89.6	97.1	76.9	127.9	123.3	107.6
9	103.8	107.5	89.3	167.0	77.0	115.8	122.4	108.6
10	101.9	104.8	85.8	99.9	76.7	120.1	122.5	106.1
11	101.9	110.3	86.1	101.3	76.3	115.3	121.6	109.2
12	101.4	306.9	85.1	357.6	76.0	349.0	121.2	335.4
44. 1	100.4	118.3	83.9	130.8	75.4	117.4	120.9	106.8
2	101.6	119.0	85.0	104.8	75.2	117.3	119.9	107.0
3	114.3	117.7	86.5	116.9	75.1	141.4	119.4	114.6
4	...	120.4	...	106.8	...	116.4	...	113.3
5	...	143.4	...	109.7	...	113.9	...	118.6
6

6 物 価 Price

図 消費者物価指数と卸売物価指数の変化



6-2 消 費 者

1. 水 戸 市

(昭和40年=100)

費 目 品 目 数 ウ エ イ ト	総 合		食 料	住 居	光 熱	被 服	雑 費
	362 10,000	対前年(月) 比 較	146 4,074	45 1,161	8 502	62 1,297	101 2,966
昭 和 38 年	88.7	—	85.4	92.9	99.3	88.3	90.7
39	91.5	2.8	89.2	93.4	99.3	91.1	92.8
40	100.0	8.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	104.4	4.4	103.2	105.3	97.2	103.8	107.1
42	107.9	3.5	107.1	109.2	98.4	105.3	111.3
43	114.9	7.0	151.3	116.4	99.4	110.7	111.8
43. 1月	111.9	0.7	112.9	113.4	99.4	108.9	113.5
2	113.2	1.3	115.8	113.6	99.4	109.7	113.4
3	113.3	0.1	115.6	113.7	99.4	109.4	114.1
4	114.3	1.0	114.8	114.4	99.4	109.2	118.5
5	115.0	0.7	114.6	117.1	99.4	108.7	120.0
6	113.7	△1.3	111.2	117.4	98.9	110.9	119.4
7	114.0	0.3	112.2	116.9	98.9	110.4	119.4
8	115.4	1.4	115.6	117.2	98.9	110.8	119.4
9	117.8	2.4	121.3	117.2	98.9	110.4	119.7
10	116.7	△1.1	117.9	117.1	99.9	112.6	119.6
11	116.7	0	116.5	117.1	100.0	113.9	120.7
12	116.9	0.2	115.4	121.4	100.7	113.9	121.4
44. 1	118.7	1.8	118.8	121.8	101.1	114.0	122.4
2	119.0	0.3	119.9	121.7	100.8	113.1	122.4
3	120.0	1.0	121.9	123.0	100.8	113.6	122.4
4	p120.9	p0.9	p122.3	p123.0	p101.5	p114.0	p124.3
5	p121.2	p0.3	p120.3	p122.9	p101.5	p115.2	p127.7
6	p121.8	p0.6	p121.9	p123.6	p101.5	p114.3	p127.8

資料：県統計課

6-1 費目別物価上昇寄与率（水戸市）

区 分	40年	41	42	43	44.4月	44.5	44.6
総 合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食 料	51.8	28.9	45.7	48.0	14.9	—	85.4
その 他の 食料	主 食	13.2	8.6	7.1	12.8	—	—
	生 鮮 魚 介	8.1	1.2	8.7	10.5	15.4	—
	肉 類	0.5	1.2	4.2	4.7	14.9	—
	野 菜	13.5	—	11.4	—	1.3	—
	果 物	2.0	8.7	—	0.6	35.3	—
住 居	9.0	13.6	12.7	11.7	—	—	10.7
家 賃 地 代	5.7	7.7	3.4	2.4	—	—	9.9
設 備 修 繕	0.4	4.0	8.3	8.1	—	—	—
光 熱	0.4	—	1.1	1.0	10.3	—	—
被 服	13.6	10.9	5.5	10.1	6.3	13.4	—
雑 費	25.2	46.6	35.0	29.1	68.5	86.6	3.9
交 通 通 信	1.4	15.1	6.2	2.4	—	22.6	—
教 育	3.8	10.7	11.2	10.2	48.1	1.0	—
教 養 娯 楽	14.2	19.3	15.4	8.3	17.5	12.0	3.9

資料：県統計課

物 価 指 数

2. 全 国

年 月	消費者物価指数（昭40年=100）			卸 売 物価指数 （昭40年=100）	戦前基準指数（昭9~11年平均=1.0）		
	全 国	対前年(月)比較	人口5万人 以上の都市		消費者物価 指 数 （東京区部）	小 売 物 価 指 数 （東 京）	卸 売 物 価 指 数
昭 和 35 年	74.0	97.9	328.0	313.8	352.1
36	77.9	98.9	345.0	322.5	355.7
37	83.2	97.3	368.2	332.5	349.7
38	90.3	...	89.5	99.0	397.3	349.4	356.0
39	93.8	3.5	92.9	99.2	413.3	355.8	356.7
40	100.0	6.2	100.0	100.0	443.2	373.8	359.4
41	105.1	5.1	105.1	102.4	464.4	382.3	368.1
42	109.3	4.2	109.2	104.3	483.5	394.3	374.7
43	115.1	5.8	115.0	105.2
43. 1月	113.5	0.8	113.4	105.4	502.1	405.5	378.8
2	114.0	0.5	114.0	105.6	504.3	406.2	379.5
3	114.2	0.2	114.1	105.5	506.1	408.1	379.2
4	114.5	0.3	114.5	104.7	507.0	403.3	376.3
5	114.5	0	114.4	104.7	509.6	401.0	376.3
6	113.5	△1.0	113.2	104.8	502.6	396.9	376.7
7	113.5	0	113.4	104.6	505.7	394.7	375.9
8	114.5	1.0	114.3	104.6	504.8	394.3	375.9
9	117.1	2.6	117.3	105.2	524.3	408.9	378.1
10	117.2	0.1	117.1	105.4	519.8	404.7	378.8
11	117.5	0.3	117.5	105.6	521.2	408.5	379.5
12	117.0	△0.4	116.9	105.6	518.1	408.9	379.5
44. 1	117.4	0.3	117.4	105.6	521.2	407.7	379.5
2	117.4	0	117.4	105.7	522.5	407.4	379.9
3	118.6	1.2	118.7	106.0	527.8	411.1	381.0
4	119.8	1.2	120.0	106.3	534.5	410.3	382.0
5	119.9	0.1	120.0	106.6	533.1	408.1	383.1
6	120.1	0.2	120.2	107.0	533.6	410.3	384.6

資料：日本銀行「経済統計月報」

7 家 計 主 要 指 標

Key Statistics on the Family

家 計 主 要 指 標

項 目	勤 勞 者 世 帯							全 世 帯		消費者	
	実収入	(1) 可処分所得	消費支出	(2) 黒 字	(3) 平均消費性向	(4) 実収入指数	(4) 実消費支出指数	消費支出	(5) エンゲル係数	物 価 指 数	
全 国											
昭和38年平均	円 53,298	49,076	41,105	7,971	83.8	90.6	92.2	40,246	38.7	90.3	(1) 実収入 - 非消費支出
39	59,704	54,873	45,511	9,362	82.9	97.8	98.3	44,481	38.1	93.8	(2) 可処分所得 - 消費支出
40	65,141	59,557	49,335	10,222	82.8	100.0	100.0	48,396	38.1	100.0	(3) 消費支出 ÷ 可処分所得
41	71,347	65,073	53,599	11,474	82.4	104.2	103.3	52,516	37.3	105.1	(4) 当該項目 (40 年=100) ÷ 消 費者物価指数
42	78,725	72,039	58,763	13,276	81.6	110.6	109.0	57,071	36.8	109.3	(5) 食料費 ÷ 消費支出
43. 9 月	71,688	65,863	61,024	4,839	92.7	94.0	105.6	60,197	37.4	117.1	
10	73,060	66,632	64,659	1,973	97.0	95.7	111.9	63,671	35.3	117.2	
11	72,797	66,571	61,335	5,236	92.1	95.1	105.8	61,241	36.1	117.5	
12	196,424	180,491	105,450	75,041	58.4	257.7	182.6	97,142	31.7	117.0	
44. 1	70,054	63,757	59,336	4,421	93.1	91.6	102.5	59,292	32.2	117.4	
2	71,326	65,207	58,310	6,897	89.4	93.3	100.7	57,315	35.8	117.4	
3	83,618	76,540	72,891	3,649	95.2	108.3	124.5	70,293	33.5	118.6	
水 戸 市											
昭和38年平均	円 67,692	61,266	44,260	17,006	72.2	108.0	92.5	40,899	34.2	88.7	
39	64,909	59,002	48,315	10,687	81.8	100.4	97.9	45,445	35.9	91.5	
40	70,600	63,966	53,892	10,074	84.2	100.0	100.0	49,643	35.5	100.0	
41	79,293	71,153	57,745	13,408	81.1	107.5	102.5	52,952	35.5	104.4	
42	86,917	78,824	62,943	15,881	79.8	113.7	107.8	59,567	34.2	108.2	
43. 9 月	68,365	61,136	64,494	△3,355	105.4	82.1	101.5	60,892	34.8	117.8	
10	76,478	69,272	62,002	7,270	89.5	92.8	98.4	61,993	33.1	116.8	
11	72,805	67,217	62,721	4,495	93.3	88.3	99.6	60,532	34.7	116.7	
12	199,177	184,853	102,181	82,672	55.3	241.3	162.2	99,206	29.2	116.9	
44. 1	65,449	59,741	55,638	4,103	93.1	78.1	87.0	57,736	30.7	118.7	
2	90,965	85,681	53,766	31,915	62.8	108.3	83.8	55,335	34.8	119.0	
3	88,697	81,949	70,821	11,127	86.4	104.5	121.3	68,429	32.4	120.0	

資料：総理府統計局

要 指 標

Income and Expenditure Survey

1 カ月 1 世帯当たりの収入と支出 (勤労者世帯)

取 入

水戸市

年 月	集計世帯数	世帯人員数	世帯主の年齢	収入(支出)	実収入	勤め先収入	事業・内職収入	他 の実収入	実収入以外の収入	前月から繰入金
				総 額						
昭和38年平均	61	4.24	42.6	93,967	67,692	55,464	1,607	10,621	10,101	16,174
39	57	4.26	42.5	96,413	64,909	59,058	1,069	4,782	15,521	15,983
40	57	3.99	42.2	108,204	70,600	64,756	1,921	3,923	19,483	18,121
41	54	3.99	41.7	115,607	79,293	74,295	1,112	3,886	14,704	21,610
42	54	3.88	42.0	125,294	86,917	80,407	1,804	4,646	18,087	20,289
43. 9月	61	3.93	41.4	113,311	68,365	65,113	1,254	1,999	17,104	27,842
10	60	4.03	41.3	114,961	76,478	70,167	1,966	4,344	12,896	25,584
11	63	4.03	40.9	119,982	72,805	67,123	1,387	4,295	24,333	22,844
12	64	4.03	41.1	241,418	199,177	190,912	2,050	6,215	18,074	24,167
1	63	4.08	41.0	112,159	65,449	61,893	573	2,983	14,626	32,084
2	65	4.12	41.2	142,007	90,965	59,778	2,178	29,008	23,286	27,756
3	67	4.06	41.2	138,609	88,697	78,243	3,646	6,807	22,588	27,324

支 出

年 月	実支出	消 費 支 出					非消費支出	実支出以外の支出	繰越金	現物総額	備 考
		食料費	住居費	光熱費	被服費	雑費					
昭和38年平均	50,686	14,488	5,172	1,928	5,428	17,244	6,426	26,039	17,242	3,418	① (収入)の世帯数人員数、年齢は(支出)にも該当 ② 消費支出の計は<主要指標>の計と一致 ③ (支出)における支出総額は上記(収入総額)の項と同じ。
39	54,222	15,487	6,158	2,147	5,936	18,587	5,907	25,086	17,105	3,710	
40	60,526	17,182	6,698	2,414	6,725	20,873	6,634	28,330	19,348	4,269	
41	65,885	18,308	5,629	2,650	6,677	24,481	8,140	28,492	21,230	3,879	
42	71,036	16,637	6,411	2,799	7,150	26,947	8,092	32,615	21,643	4,277	
43. 9月	71,721	20,776	9,270	2,044	6,219	26,184	7,229	17,727	23,863	3,544	
10	69,208	20,415	6,072	2,544	6,745	26,227	7,206	19,964	25,789	4,187	
11	68,309	20,674	6,780	2,656	6,619	25,992	5,588	27,426	24,247	5,691	
12	116,505	28,379	14,795	3,512	15,182	40,313	14,324	93,245	31,668	8,313	
1	61,346	17,093	3,544	3,216	3,851	27,934	5,708	21,789	29,024	5,868	
2	59,050	18,684	5,884	3,451	3,668	22,079	5,284	51,686	31,271	3,249	
3	77,570	22,916	5,767	3,497	8,415	30,227	6,748	30,826	30,213	3,804	

いつでもいまごろは

県統計課 横須賀 弘

いま頃になると、きまつたように春季賃上げ闘争が新聞紙上にぎわす。こと賃金に限らずいたちごつこ現象は社会機構のなかにいくつも存在する。毎日食べている米にしても、物価が上るから米価も上げる、米価が上ると物価も上るといった議論が生産者や消費者から述べられている。同じように、賃金にしても、物価が上げれば生活が苦しい、最低生活を営むために賃金を上げろ、賃金が上げばコストが上る、コストが上げば物価も上る。といった労使間のやりとりがきかれる。しかし、本源となるものはいずれも物価上昇という現象であり、思想、階級をぬきにして現在の社会、政治、経済機構のなかで真剣に論議されたことがあるだろうか。物価上昇の要因は多様で且つ複雑なものとされているがその原因説明と反省はぜひともやりとげなければならぬことである。

さて、こうした情勢のなかでの県内各企業の春季賃上げ妥結状況（県労政課調）をみると、昭44.6.25現在の各企業の賃金平均ベースは33,878円で、これを産業別にその格差をみると、最も平均ベースの低い産業は繊維工業の24,064円であり、最高は公共企業の48,426円である。この賃金格差はその企業の従業者性別の構成、賃金格差等にその遠因をみることができよう。

また、昨年同期の賃上げ要求妥結額は4,462円で、本年の5,956円は17.6%の増加となる。このうち、最高の妥結額を獲得した産業に、昨年は電気ガス水道業の5,450円、輸送用機械器具5,442円等5,000円台を大きく上廻っているのが目立ち、反対に家具装備品は2,310円で高額妥結額をみた上記企業の半分にも満たない。しかし、本年の平均妥結増加率は17.6%であるから、その分がこれらの額に上積みされるわけではない。つまり、本年の妥結額をみると昨年最高妥結額を示した電気ガス水道業は

6,800円、最低の妥結額にとどまつた家具装備品は6,310円とその実績にあまり格差はみられなかつた。

このように平均妥結額は上述のとおり5,956円であるが、その上下についてみると、最高妥結額は窯業土石製品の7,191円、最低は木材木製品の4,294円で、その格差は昨年ほどではなくなつたのである。しかしながら昨年及び本年の妥結額をみて感ずることは依然として、木材、木製品関係産業の低位が目立つことである。

なお、生産性の低い産業によく製造業と比較される卸売小売業があるが、成程当該産業の平均賃金ベースは25,451円で、繊維工業に次いで低額賃金ベースであり、本年妥結額も5,017円で平均妥結額を大きく下廻っている。ところが、こおした商業部門の企業ほど当面する社会変容に敏感な産業も少ない、去る6月上旬水戸商工会議所で実施した季節商品売行き調査からも本年は、昨年にくらべたしかに売上げは増加している。それでは1体どういった商品が売れたかということ、とくべつこれといった答は出にくい。要するになんでもよく売れたということである。このように、消費者側の購入姿勢にも特定の商品を買うということより、生活全体の上での楽しさ、ゆたかさ等を求めようとする、結果としては多角的な買物結果がみられ、何かしらが売れているということになるのであろう。前述に春季賃上げ妥結額について触れたが、要求の最大の原因は最低生活の維持というスローガンのもとなされるのであるが、一般的な消費者層の生活はかなりのゆとりがみられるというところから、要求する側からしても、社会人としての文化生活水準を維持するための賃上げ要求に移行するのではあるまいか。いずれにしろ年間を通しての今頃のニュースは本年度の景気動向の大きな支柱となるのである。

県内の産業

(その40)

— 準戦下の工業 —

次に1工場当たり生産額をみると、昭和17年は38,337円で、昭和15年の28,675円にくらべ9,662円(33.7%)の大きな増加をみたわけでありますが、第1表でわかるように、職工1人当たり生産額は反対に昭和17年4,350円で、昭和15年の4,990円にくらべ、640円(△12.8%)の減少を示しているのであります。これは本県の場合、工場数で昭和17年は8,833工場、昭和15年の9,861工場にくらべ1,028工場(△10.4%)の減少したことと、職工数は反対に昭和17年77,852人でこれは昭和15年の56,665人にくらべ21,187人(37.4%)と大きな増加を示したことによるものと思われるが、このことは5人以上工場の職工規模拡大が積極的に行なわれたことに主因があるものと推察されるのであります。

第1表 都県別職工1人当たり生産額

都 県 名	規 模 別	1人当たり生産額		昭17 / 昭15
		昭 15	昭 17	
茨 城	計	4,990円	4,350円	82.2%
	5人以下	1,400	1,592	113.7
	5人以上	6,782	5,106	75.3
栃 木	計	4,993	4,189	83.9
	5人以下	1,205	1,086	90.1
	5人以上	7,201	5,655	78.5
群 馬	計	3,723	3,888	104.4
	5人以下	1,714	1,559	91.0
	5人以上	4,064	4,194	103.2
埼 玉	計	4,352	4,432	101.8
	5人以下	1,542	1,525	98.9
	5人以上	5,368	5,116	95.3
千 葉	計	4,532	4,413	97.4
	5人以下	1,542	1,384	89.8
	5人以上	7,006	5,749	82.1
東 京	計	6,265	5,920	94.5
	5人以下	2,019	1,588	78.7
	5人以上	7,539	6,793	90.1
神 奈 川	計	9,966	7,996	80.2
	5人以下	2,086	1,843	88.4
	5人以上	10,776	8,319	77.2
山 梨	計	2,314	3,530	152.5
	5人以下	864	2,363	273.5
	5人以上	4,690	4,489	95.7
長 野	計	4,662	3,767	80.8
	5人以下	2,325	847	36.4
	5人以上	5,201	4,984	95.8
静 岡	計	5,309	5,261	99.1
	5人以下	2,002	1,623	81.1
	5人以上	6,291	6,380	101.4

この1工場当たり生産額昭和15年28,675円は、関東ブロック内で神奈川の195,966円、東京55,687円、群馬44,734円、静岡36,226円に次いで第5位にあたります。

さらにこれを職工5人以下規模工場及び5人以上規模工場に分けてみると、5人以下規模工場の1工場当たり生産額は3,035円で、これは関東ブロックのうち第8位になり、本県に次いで低位の県では栃木2,542円、長野2,346円があるが、本県の職工5人以上規模1工場当たり生産額は221,550円で、これは神奈川863,937円、東京233,858円に次いで第3位にあたります。

このように、本県の産業構造はそれぞれの生産額からも推察できるように、零細工場と大工場との格差が大きく、とくに大工場の下請企業にいたつてはその盛衰に大きな影響をうけやすい状態におかれています。

第2表 都県別1工場当たり生産額

都 県 名	規 模 別	1工場当たり生産額		昭17 / 昭15
		昭 15	昭 17	
茨 城	計	28,675円	38,337円	133.7%
	5人以下	3,035	3,442	113.4
	5人以上	221,550	288,302	130.1
栃 木	計	23,918	22,905	95.8
	5人以下	2,542	2,264	89.1
	5人以上	132,676	132,285	99.7
群 馬	計	44,734	54,183	121.1
	5人以下	3,963	3,384	85.4
	5人以上	169,354	203,516	120.2
埼 玉	計	27,894	37,179	133.3
	5人以下	3,196	3,029	94.8
	5人以上	141,287	177,382	125.8
千 葉	計	18,648	24,541	131.6
	5人以下	3,291	2,759	86.5
	5人以上	124,050	151,814	122.4
東 京	計	55,687	65,469	117.6
	5人以下	5,314	3,753	70.6
	5人以上	233,858	280,784	120.1
神 奈 川	計	195,966	276,748	141.2
	5人以下	4,920	4,188	85.1
	5人以上	863,937	1,139,339	131.9
山 梨	計	14,553	14,812	101.8
	5人以下	3,923	5,055	128.9
	5人以上	80,250	89,821	111.9
長 野	計	22,218	22,095	99.4
	5人以下	2,346	1,664	70.9
	5人以上	174,424	169,073	96.9
静 岡	計	36,226	39,728	109.7
	5人以下	4,149	3,695	89.1
	5人以上	134,234	167,717	124.9

また、県内にはこれといった地場産業の発達が少なく、地理的にみても東京からは利根川、霞ヶ浦といった河川、湖沼が本県地形的に隔絶性の高い地域に分割し、海岸線についてみても、白砂青松といった平坦な海岸線には良好な港湾にも恵まれず、こうした諸要素が諸産業

の発達を阻害していたとも考えられるのであります。それに加えて、関東ローム層という特殊な土質は悪路を生み、道路等の建設を困難ならしめるといつた悪循環が、新設の工場進出の機会を阻んだともみられるのであります。いずれにせよ、明治年代後半における日本鉱業所、日立製作所等の創立以来、県内にはこれらに匹敵するような工場の出現はなかつたのであります。したがって、本県の産業構造の骨組みは細部には変化も、あるいは改善もなされたものの、本質的には長期間にわたり少しも変つてはいないのであります。

続いて、昭和17年の本県の1工場当たりの生産額は38,337円で、都県別生産順位も昭和15年と全く変わりなく、5人以下規模工場にあつては、1工場当たり生産額は3,442円で、昭和19年には本県より上位にあつた群馬、埼玉がそれぞれ当該規模層の不振により本県に次いだことにより、昭和17年では本県はブロック内では第6位を示すことになつたのであります。

また、5人以上規模工場の1工場当たり生産額は288,302円で、東京の280,784円を凌いで神奈川の1,139,339円に次いで関東プロ内では第2位に進出したのであります。ここからも、大工場と零細工場の格差はますます拡

大し、その均衡はアンバランスの不安定な状態におかれていたのであります。

このように、本県1工場当たり生産額の推移は17年/15年対比で133.7%年率16.9%の大きな増加率を示したのであります。

この増加率は神奈川の141.2%に次ぐものであります。すなわち、5人以下規模層の昭15～昭17の増加率は113.4%で、このように増加を示したところは関東プロ内でも山梨だけであり、当該規模層の大きな不振がとくに目立つたといえます。

また5人以上規模層の昭15～昭17の増加率は130.1%で、この増加率も神奈川の131.9%に次ぐ高率であつたのであります。

このように本県の1工場当たりの生産額は、5人以下規模層および5人以上規模層とも増加傾向を示したといふところに大きな特長が他県にくらべあつたわけであり

ます。しかし、第3表からも、工場数、職工数等の実数と、生産額を比較してみるとその推移もよくわかるでし

ょう。

(県統計課横須賀弘)

第3表

都 県 別 工 場 数 ・ 職 工 数 ・ 生 産 額

都 県 名	規 模 別	工 場 数		職 工 数		生 産 額	
		昭 15	昭 17	昭 15	昭 17	昭 15	昭 17
茨 城	計	9,861	8,833	56,665	77,852	282,762,802	338,628,361
	5人以上	1,157	1,082	37,795	61,091	256,333,290	311,942,403
	5人以下	8,704	7,751	18,870	16,761	26,419,512	26,675,958
栃 木	計	10,526	11,084	50,423	60,600	251,763,815	253,878,677
	5人以上	1,729	1,756	31,856	41,157	229,397,614	232,757,675
	5人以下	8,797	9,328	18,567	19,443	22,366,201	21,121,002
群 馬	計	8,466	7,513	101,712	104,709	378,720,471	407,075,972
	5人以上	2,087	1,907	86,963	92,540	353,441,092	388,105,581
	5人以下	6,379	5,606	14,749	12,169	25,279,379	18,970,391
埼 玉	計	17,087	15,061	109,520	126,344	476,618,465	559,956,652
	5人以上	3,056	2,950	80,431	102,288	431,774,141	523,275,456
	5人以下	14,031	12,111	29,089	24,056	44,844,324	36,681,196
千 葉	計	13,085	11,305	53,837	62,873	244,010,311	277,434,595
	5人以上	1,664	1,652	29,463	43,626	206,419,839	250,797,463
	5人以下	11,421	9,653	24,374	19,247	37,590,472	26,637,132
東 京	計	96,348	96,501	856,395	1,067,251	5,365,328,268	6,317,783,513
	5人以上	21,236	21,534	658,731	890,115	4,966,199,992	6,046,413,126
	5人以下	75,112	74,967	197,664	177,136	399,128,276	281,370,387
神奈川	計	11,803	10,237	232,087	354,320	2,312,987,072	2,833,071,088
	5人以上	2,625	2,458	210,443	336,641	2,267,834,997	2,800,494,639
	5人以下	9,178	7,779	21,644	17,679	45,152,075	32,576,449
山 梨	計	8,903	8,027	56,003	33,683	129,569,746	118,897,106
	5人以上	1,240	924	21,215	18,488	99,510,245	82,994,226
	5人以下	7,663	7,103	34,788	15,195	30,059,501	35,902,880
長 野	計	18,938	17,027	90,245	99,881	420,755,456	376,213,948
	5人以上	2,187	2,078	73,344	70,489	381,464,238	351,333,616
	5人以下	16,751	14,949	16,901	29,392	39,291,218	24,880,332
静 岡	計	20,208	20,561	137,886	155,254	732,055,834	816,854,702
	5人以上	4,983	4,517	106,332	118,737	668,887,159	757,576,692
	5人以下	15,225	16,044	31,554	36,517	63,168,675	59,278,010

県内小売店とセルフ店への一考察 (その2)

また、売場面積についても小売店の1店当たり売場面積は39年29.7㎡、41年32.6㎡、43年34.9㎡と毎回売場面積の拡大がみられるが、セルフ店1店当たり売場面積は39年348㎡、41年395㎡、43年286㎡と41年までは売場面積の拡大に積極的であつたものが、43年には39年の数値を下廻つた。この結果1㎡当たり年間販売額も小売店では41年16万円、セルフ店24万円で、セルフ店の小売店に対する販売効率は1.5倍であつたものが、43年には小売店29万円、セルフ店35万円で、その販売効率も1.2倍で、41年にくらべセルフ店の小売店に対する1㎡当たり販売効率は0.3ポイントの減少を示したのである。

第3表 小売業とセルフ店の1店当たり比較

一店当たり	小 売 業			セ ル フ 店		
	昭39	41	43	昭39	41	43
従業者数 (人)	2.5	2.6	2.7	24.3	22.9	15.4
売場面積 (㎡)	29.7	32.6	34.9	348.0	395.0	286.0
年間販売額 (万円)	451	560	841	8,708	11,536	10,228

このように県内における小売店とセルフ店の競合はますます激化するであろうし、巨大な資本を投入して運営されるであろうセルフ店の進出も予測される。しかし、商業センサス結果の数値から判断されるように、県内小売店及びセルフ店の採用したと思われる経営技術は、その業種自身をとりまく経済的、社会的制約のもとに集約された普遍的な方策であろうか。他店が店舗改善をしたから、あるいは若い人が雇用できないから、といった安易な妥協の経営であつたとしたら、その後大きな穴が待ちうけているような気がしてならないのである。小売店もセルフ店も、過去における10年という周期は、現代のスピーディな社会変容期では、もはや1年という短い期間に短縮されたと考へても過言ではないだろう。それほど国内の経済機構はあらゆる面で異質な態様で分離集散を続け、あれよあれよと思つている間に無想だになつた巨大な現実が目の前に出現する時代なのである。商業界にしても、また小売業界にしても、従来の甘い判断で処理できない現況に及んでいる。例えば、1965年発刊の(今から4年前になる)通産省調査統計部編「わが国の商業」の「まえがき」のなかに次のような1文がある。『——略——しかしながら、欧米諸国の例に徴するも、近代的大量生産体制の下に生産力も旺盛となり、国民所得も漸次向上し労働力の価値も高まつてき

た今日および今後を予測すると、明治、大正時代とは申さぬまでも昭和初期の姿のままの(当時と全く同一とは申さないが)商業構造、流通機構をもつてしては、国民生活の安定を図りつつ経済の安定成長を期して行くことはできないということは論者の見解の一致するところである。とくに最近の消費者物価の高騰に関連して「すみやかに流通の合理化を図れ」という声は新聞、雑誌の論説に強く唱えられているところである。商業構造、流通機構は幅広く、下層の厚い大きなものであるが、故に、社会的摩擦を惹起するような急激な変容を政策的に推し進めることは不適當であろう。しかし、言葉の矛盾を犯すことを承知の上で申せば、徐々にではあるがすみやかに変容を遂げて行くであろうし、——以下略——。』これは「わが国の商業」発刊に寄せた当時の通産省田中辰男商業統計課長の序文であるが、あらゆる商業行政等をはねのけて商業の実態は変容するであろうということであり、当時としては徐々にではあるがすみやかに変容を遂げると予測されていた商業部門は、現在では、それ以上のスピードで変化を遂げていることである。それほど4年前とは国際的経済問題にしろ、技術的向上にしても、流通機構にしても、又消費者の生活意識等も変わりつつあることである。それに加えて都市化分散政策による人口の流動が地方都市とその周辺環境を一変させるのである。最近日本住宅公団の団地造成も、首都圏の半径距離を徐々に延ばし現在では50km圏内において施行される場合が多い。こおした地域のベツタン化後によつてその周辺の人口の急増は現実に起り得ることであろうし、その変容のスピードはあらゆる行政力をも超越して進化する。4年前に危惧された社会的摩擦は行財政を含めあらゆる面で惹起せざるを得ないのが現状ではなからうか。そこから発生する諸問題を最少限度の被害で喰い止めるべき施策を今では真剣に考えなければならない時代にあるのである。なかでも、商業部門はこの過渡期の激流のなかにあつて最も活動的に、最も根強く膨張し続けるだろうし、体内に浸入する細菌と白血球との闘争のように地元資本と都市資本との対決は避けられないものであろう。しかし、現状では地元のすべての態勢があまりにも貧弱なことが目立つだけである。

県内の取手町を例にしても、同町の人口の増加率は年々著しい。また次に挙げられる団地造成も急ピツチに進み、近い将来水戸、日立、土浦に次いで都市が誕生しかねない情勢にあるのである。

(取手町における団地造成)

井野団地(公団) 2,124戸

八重州興業団地（民営）建売

東観団地

戸頭団地（公団） 4,800戸

稲 団 地（公団） 4,500戸

このように取手町自体大きく変わろうとしているわけだが、同町の商業構造そのものにもいくつかの問題がみられるのである。取手町商業（小売業）で最も多いのは飲食物品の小売業であり全体の年間販売額で47.7%、商店数で51.6%を占める。また都市化とともに発達するといわれる飲食店も、駅周辺にみられるような小規模なのみ屋が最も多く、喫茶店にいたっては3店しか存在しない。と同時に同町の商店街にしても魅力的なショッピングムードということになるとそうした創造的意欲はあまりみられないのである。したがって、地元資本あるいは地元商店としては、上記団地の消費者とどのような結びつきを持つというのであろうか。消費者自身はこうした意志と無関係に購買行動を続け生活している。

現実に販売シエアーを拡大しつつある千葉県柏市は同町とは数キロの地点にある。そこには現在まで大型店舗が10店以上進出し、周辺の消費者獲得に躍起である。県内の消費者が、こうした新生商業地域に集中するのは現実の姿であらうし、県の商業行政措置としても、こうし

た消費者の購買思考にどう対処すべきか、今後に残る問題は大きい。

参考までに、現在までに柏市に進出した大規模商店は次のとおりである。

	売場面積	
三喜（衣料）	1,600㎡	
松屋（＃）	650㎡	＃
京北スーパー（食品）	330㎡	＃
サカエストアー（食品・衣料）	680㎡	＃
丸井（月販）	1,500㎡	＃
サンマート（食品）	300㎡	＃
伊勢角（食品）	330㎡	＃
緑屋（月販）	1,400㎡	＃
柏名店センター	—	＃
西友ストアー（食料・衣料）	1,400㎡	＃
マツモトキヨシ	—	＃
（ドラッグ・ストアー）		

上述のような都市化と人口増により、例を取手町にとるまでもなく、県内のいたるところでこういったことが起りつつあるのである。統計の宣伝みたいで手前みそになるが、そうした材料を参考にしてもう1度周囲を見わたしてみる必要があるのではあるまいか。

（県統計課 横須賀弘）

昭和43年就業構造基本調査結果の概要

県 統 計 課

総理府統計局では、わが国人口の就業状態についての基本的資料を得るため、昭和43年7月1日現在で、全国の世帯のうちから約100分の1にあたる25万世帯（本県においては約4,700世帯）を抽出して、就業構造基本調査を実施したが、このほどその結果がまとまり、その概要が公表された。

この調査は、昭和31年に第1回調査を行なつて以来3年ごとに実施しており、今回はその5回目にあたり、この種の調査としては国勢調査について大規模な統計調査である。

わが国人口の就業状態については、国勢調査や労働調査でも調査しているが、これらの調査では就業状態を調査日前1週間の実際の活動状態によつては握しているのに対して、この就業構造基本調査では、ふだんの状態によつて調査しているため、国勢調査や労働力調査の数字とは区別して見る必要がある。

1. 15才以上人口の就業・不就業の状態

昭和43年7月1日現在における本県の15才以上の人口152万8千人（自衛隊の営舎内居住者、刑務所の在監者な

どを除く。）のうち、ふだん仕事をしている「有業者」は105万6千人（有業率69.1%）、ふだん仕事をしていない「無業者」は47万2千人（30.9%）で、前回の40年調査とくらべて有業者が6万1千人増加している。

この増加した有業者の内訳を就業状態別にみると、前回調査とくらべて「仕事がおもな者」は1万2千人、「仕事は従な者」は5万2千人とそれぞれ増加している。この結果、有業者中にしめる「仕事がおもな者」の割合は40年の91.9%から43年の87.5%へと低下し、逆に「仕事は従な者」の割合は、7.9%から12.4%へと増加している。「仕事がおもな者」で男子2万6千人の増加。女子は1万3千人の減、総体で1万2千人の増加である。「仕事は従な者」についてみると増加数5万2千人のうち、男子はわずか4千人にすぎず、女子が4万7千人の増加となつており、そのうち「家事がおもな者」が94.1%をしめている。

今回の調査においては有業者の増加、とくに女子の「仕事は従な者」で「家事がおもな者」の増加がめだつている。（表1参照）

表 1

15才以上の就業人口

(単位 千人)

内 訳	総 数				男				女			
	43 年		40年~43年		43 年		40年~43年		43 年		40年~43年	
	実数	構成比 (%)	増加数	増加率 (%)	実数	構成比 (%)	増加数	増加率 (%)	実数	構成比 (%)	増加数	増加率 (%)
15才以上総数	1,528	(100.0)	65	4.3	738	(100.0)	31	4.2	790	(100.0)	34	4.3
有業者	1,056	(69.1)	61	6.0	610	(82.7)	27	4.8	446	(56.5)	34	7.6
仕事がおもな者	925	87.6	12	1.3	600	98.4	26	4.3	326	73.1	△13	△0.4
仕事は従な者	131	12.4	52	39.7	11	1.8	4	36.4	120	26.9	47	39.2
うち家事がおもな者	120	11.4	—	—	7	1.4	—	—	113	25.3	—	—
無業者	472	(30.9)	4	0.0	128	(16.3)	4	0.3	344	(43.5)	0	0.0

注) 40年の有業者の内訳には、休業者(2千人)は含まれていない。

女子の「仕事は従な者」の増加を年令別有業率でみると 55才~64才の24.7%増加が大きい。
40年に比べて各年令層において増加しているが、とく

(表2参照)

表 2

年 令 別 有 業 率

(単位 千人)

年令階層別	男						女					
	43 年			40 年 1)			43 年			40 年 1)		
	有業率	仕事がおもな者	仕事は従な者	有業率	仕事がおもな者	仕事は従な者	有業率	仕事がおもな者	仕事は従な者	有業率	仕事がおもな者	仕事は従な者
総 数	82.7	81.2	1.5	82.4	81.2	1.2	56.5	41.3	15.2	54.6	44.6	9.7
15~19才	38.3	36.4	1.9	36.0	34.3	1.7	33.9	28.4	4.6	35.8	33.4	2.4
20~24	91.1	89.9	1.2	92.1	90.9	1.2	69.1	58.0	11.1	72.2	66.9	5.3
25~29	95.9	95.9	0.0	98.5	98.0	0.5	55.4	41.9	13.5	57.8	50.7	7.1
30~34	98.7	98.7	0.0	99.0	98.7	0.3	59.5	41.9	17.6	58.3	48.9	9.4
35~39	100.0	98.8	0.0	98.7	98.6	0.1	72.7	55.8	16.9	71.3	60.6	10.7
40~54	98.2	97.0	1.9	97.3	96.9	0.4	74.9	55.4	19.0	68.0	54.2	13.8
55~64	85.4	82.9	2.4	87.0	84.9	2.1	52.8	27.0	24.7	48.6	31.2	17.4
65 以上	49.3	43.5	5.8	46.1	41.8	4.3	22.0	11.0	11.0	17.3	9.9	7.4

1) 40年は「仕事がおもな者」、「仕事は従な者」の中には、休業者(2千人)(単位千人)は含まれていない。

2 有業者の従業上の地位および産業別構成

有業者105万6千人を従業上の地位別にみると、自営業主72万9千人(26.4%)、家族従業者33万6千人(31.8%)、雇業者(41.2%)となっており、前回の昭和40年調

査の従業上の地位別構成(自営業主27.0%、家族従業者31.8%、雇業者41.2%)とくらべて、自営業主の割合は減少、家族従業者変わらず、雇業者の割合が0.7%高くなっている。(表3参照)

表 3

農・非農、従業上の地位別有業者数

—43年・40年

(単位 千人)

区 分	有 業 者 総 数					仕 事 が お も な 者				
	実 数		構成比 (%)		増 減 率 (△=減) (%)	実 数		構成比 (%)		増 減 率 (△=減) (%)
	43 年	40 年	43 年	40 年		43 年	40 年	43 年	40 年	
全 産 業	1,056	993	100.0	100.0	6.3	925	913	100.0	100.0	1.3
自 営 業 主	279	268	26.4	27.0	4.1	252	249	27.2	27.3	1.2
家 族 従 業 者	336	316	31.8	31.8	6.3	249	265	26.9	29.0	△6.0
雇 用 者	441	409	41.8	41.2	7.8	425	399	45.9	43.7	6.5

有業者105万6千人のうち、農林業就業者は45万7千人、非農林業就業者は59万9千人で、その割合は農林業43.3%、非農林業56.7%となっている。

非農林業就業者の中では、製造業18万2千人（全有業者の30.4%）、卸売・小売業15万人（同25.0%）、サービス業11万1千人（同18.5%）、建設業（同8.2%）などが就業者の多い産業である。

これら産業別就業者について、前回あるいは過去の調査と比較してみると農林業就業者の全有業者中にしめる割合は、34年が57万5千人（59.5%）、37年が50万5千人（51.5%）、40年が45万6千人（45.8%）、さらに今回

の45万7千人（43.3%）へと構成比では減少を続けている。

これを過去の調査との増減率でみると34年～37年の12.2%、37年～40年の9.7%としいにその減少速度がにぶつてきたが40年～43年において0.2%の増加となった。

非農林業のうち、とくに増加率の高い産業は建設業の32.4%、金融・保険・不動産業の27.3%、卸売・小売業の24.0%などで、反面減少には鉱業の21.4%、公務の21.2%続いて製造業の0.6%となっている。（表4参照）

表 4 産 業 別 有 業 者 数 —43年・40年（単位 千人）

区 分	有 業 者 総 数					仕 事 が お も な 者				
	実 数		構 成 比 (%)		増 減 率 (△=減) (%)	実 数		構 成 比 (%)		増 減 率 (△=減) (%)
	43 年	40 年	43 年	40 年		43 年	40 年	43 年	40 年	
全 産 業	1,056	993	100.0	100.0	6.3	925	913	100.0	100.0	1.3
農 林 業	457	455	43.5	45.8	0.4	378	401	40.8	43.9	△ 5.7
農 業	454	—	99.3	—	—	375	—	99.2	—	—
林業・狩猟業	3	—	0.7	—	—	3	—	0.8	—	—
非 農 林 業	599	537	56.7	54.1	11.5	548	513	59.2	56.1	6.8
漁 業	9	8	1.5	1.5	12.5	8	7	1.5	1.4	14.3
産 養 殖 業	11	14	1.8	2.6	△21.4	10	14	1.8	2.7	△28.6
鉱 業	49	37	8.2	6.9	32.4	47	36	8.6	7.0	30.6
建 設 業	182	183	30.4	34.1	△ 0.6	168	177	30.7	34.5	△ 5.1
製 造 業	150	121	25.0	22.5	24.0	130	110	23.7	21.4	18.2
卸 売 ・ 小 売 業	14	11	2.3	2.0	27.3	13	10	2.4	1.9	30.0
金 融 ・ 保 険 業	43	43	7.8	8.0	9.3	43	43	8.6	8.3	9.3
不 動 産 業	4	4	—	—	—	4	4	—	—	—
運 輸 ・ 通 信 業	111	88	18.5	16.4	12.6	99	82	18.1	16.0	20.7
電 気 ・ ガ ス 業	26	33	4.9	6.1	△21.2	26	33	4.7	6.4	21.2
水 道 業	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0
サ ー ビ ス 業										
公 分 類 不 務 能 業										
の 産 業										

また、これを産業別にみた場合第3次産業の増加は、昭和31年調査以来今回調査まで増加の一途をたどっており

その増加率も各調査毎に高くなっていることに注目されたい。（表5参照）

第 5 産 業 別 有 業 者 数 —43年～31年

区 分	実 数					増 減 率 (%)			
	43 年	40 年	37 年	34 年	31 年	40年～43年	37年～40年	34年～37年	31年～34年
全 産 業	1,056	993	975	966	981	6.3	1.8	0.9	△ 1.5
第 1 次 産 業	466	463	509	585	639	0.6	△ 9.0	△12.7	16.8
第 2 次 産 業	242	234	204	146	125	3.4	14.7	14.0	16.8
第 3 次 産 業	348	296	262	236	216	17.6	13.0	11.0	9.3
	割 合								
全 産 業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0				
第 1 次 産 業	44.1	46.6	52.2	60.6	65.1				
第 2 次 産 業	22.9	23.6	20.9	15.1	12.7				
第 3 次 産 業	33.0	29.8	26.9	24.4	21.9				

3 所得

雇用者の平均所得は、40年の34万4千円から43年の48万1千円へと39.8%増加した。これを所得階層別にみると雇用者総数44万1千人のうち

(1) 12万円未満が2万人(4.5%) 前回2万7千人(6.6%)で2.1ポイントの減

(2) 12万円～29万円が10万6千人(24.0%) 前回18万3千人(44.6%)で20.6ポイントの減

(3) 30万円～99万円が28万2千人(63.9%) 前回18万9千人(46.0%) 17.9ポイントの増

(4) 100万円以上が3万1千人(7.0%) 前回1万人(2.4%) 4.6ポイントの増

であり高所得層へと移行している。(表6参照)

表6 農・非農、従業上の地位所得階層別自営業主および雇用者数 (単位 千人)

区 分	自 営 業 主						雇 用 者					
	総 数	平均所得	12万円未満	12～29	30～99	100万円以上	総 数	平均所得	12万円未満	12～29	30～99	100万円以上
総 数	279	52.2	33	39	179	28	441	48.1	20	106	282	31
(%)	(100.0)	(11.8)	(14.0)	(64.2)	(10.0)	(100.0)	(4.5)	(24.0)	(63.9)	(7.0)		
仕事がおもな者	252	55.4	17	35	173	4	425	49.1	14	99	280	31
農 林 業	166	47.9	12	25	118	0	4	28.7	1	0	2	0
非農林業	85	70.0	5	10	55	4	421	49.3	13	97	279	31
仕事は従な者	28	22.9	16	5	6	0	16	19.0	6	7	2	0
男	213	59.8	8	21	159	26	308	56.5	6	42	229	30
(%)	(100.0)	(3.7)	(9.8)	(74.6)	(12.2)	(100.0)	(1.9)	(13.6)	(74.4)	(9.7)		
仕事がおもな者	210	59.9	7	21	156	26	305	56.8	5	41	228	30
農 林 業	142	52.0	6	16	110	10	3	33.2	1	0	1	0
非農林業	68	76.5	1	5	46	16	302	57.0	4	40	228	30
仕事は従な者	4	53.7	1	0	2	1	2	19.4	1	0	0	0
女	66	27.6	25	19	20	2	133	28.5	14	66	54	1
(%)	(100.0)	(37.8)	(28.7)	(30.3)	(3.0)	(100.0)	(10.5)	(49.6)	(40.6)	(0.8)		
仕事がおもな者	42	33.0	10	13	17	1	120	29.6	9	58	52	1
農 林 業	24	24.1	7	9	9	0	1	16.3	0	0	0	0
非農林業	8	45.1	4	5	8	1	119	29.7	9	58	51	1
仕事は従な者	24	18.1	15	5	4	0	14	—	5	7	1	0

4 有業者の仕事に対する希望意識

有業者105万6千人について、仕事に対する希望意識をみると、「現在の仕事をやめて別の仕事に変わりたい」という転職希望者が2万6千人(転職希望率2.4%)おりそのうち実際に求職活動をしている求職者は1万人(求職率0.9%)である。これは前回調査の転職希望率3.4%(求職率1.0%)にくらべて低くなっている。

また、「現在の仕事を続けながらさらに仕事をしたい」という追加就業希望者は2万2千人(追加就業希望率2.0%)おり、そのうち、求職者は、8千人(求職率0.7%)である。これを前回調査と比較すると追加就業希望率2.0%(求職率0.7%)で希望率において0.2%増となっているが求職率においては逆に0.2%減となっている。(表7参照)

表7 仕事に対する希望意識 (単位 千人)

区 分	4 3 年			4 0 年		
	実 数	希望率 (%)	求職率 (%)	実 数	希望率 (%)	求職率 (%)
有 業 者 総 数	1,056	—	—	995	—	—
転 職 希 望 者	26	2.4	0.9	25	2.5	1.0
追 加 就 業 希 望 者	22	2.0	0.7	18	1.8	0.9
継 続 希 望 者	995	94.2	—	939	94.3	—

注) 希望率および求職率は、有業者に対する希望者および求職者の割合である。

5 無業者の就業希望意識

無業者47万2千人について「仕事をしたい」という就業希望者は、11万人（就業希望率23.3%）おり、そのうち実際に求職活動をしている就業希望者、いわゆる求職者の割合は11.0%である。就業希望者を男女別にみると男子の2万2千人（就業希望率17.1%）に対し、女子は

88千人（就業希望率25.6%）と女子のほうが圧倒的に多い。また、これを求職率でみても男子6.3%に対し女子は9.6%で男子より多くなっている。

就業希望者は40年調査と比較してみると、40年は2万9千人、希望率16.7%（求職率7.1%）となっており、就業希望者、求職者ともに40年にくらべてかなり増加している。（表8参照）

表8 無業者の就業希望意識 (単位 千人)

区 分	4 3 年			4 0 年		
	実 数	就業希望率(%)	求職率(%)	実 数	就業希望率(%)	求職率(%)
無業者総数	472	—	—	468	—	—
就業希望者	110	23.3	11.0	79	16.7	7.1
男	128	—	—	124	—	—
就業希望者	22	17.1	6.3	16	12.9	6.5
女	344	—	—	344	—	—
就業希望者	88	25.6	9.6	63	18.3	7.3

注) 就業希望率および求職率は、男女別無業者数に対する就業希望者および求職者の割合である。

女子の就業希望者を、本業希望か副業希望かに分けてみると、副業希望が2万1千人と全体の80.6%をしめてお

り、そのうち5万9千人（83.4%）までが「ふだん家事をしている者」である。（表9参照）

表9 無業の状態、本業、副業希望の別就業希望者数 (単位 千人)

区 分	男			女		
	総 数	本業希望者	副業希望者	総 数	本業希望者	副業希望者
総 数	22	13	10	88	16	71
家事をしている者	1	1	0	69	10	59
通学している者	12	3	9	13	4	9
そ の 他	9	8	1	6	2	3

就業希望者について、その希望する理由をみると「学校を卒業したから」が男子73.3%、女子55.5%と圧倒的に多い。また、特に注目されることは女子の「余暇がで

きたからその他」が27.7%を占めていることである。

(表10参照)

表10 就業希望理由(新規就業者) (単位 千人)

区 分	男		女	
	実 数	構成比(%)	実 数	構成比(%)
総 数	15	100.0	18	100.0
失業しているから	1	6.7	0	0.0
学校を卒業したから	11	73.3	10	55.5
生活困難になったから	0	0.0	1	5.5
生活困難ではないが、もつと家計の収入をえたいから	1	6.7	2	11.1
学資、小づかいをもつとえたいから	0	0.0	1	5.5
余暇ができたから、その他	1	6.7	5	27.7

6 就業異動

過去1年間に仕事を変えた者、すなわち転職者は、2万3千人で有業者全体の2.2%（転職者率）を占めている。これを男女別にみると男子が1万5千人（転職者率2.5

%）、女子が8千人（転職者率1.8%）で、男子の転職者率のほうが高い。

また、転職者を40年の2万人（転職者率2.0%）とくらべるとわずかではあるがふえている。（表11参照）

表11 理由別転職者数 (単位 千人)

区 分	総 数		男		女	
	実 数	構成比(%)	実 数	構成比(%)	実 数	構成比(%)
総 数	23	100.0	15	100.0	8	100.0
人員整理・会社解散・倒産のため	2	8.0	1	7.0	1	12.0
一時的、不安定な仕事だったから	3	13.0	2	14.0	1	12.0
収入が少なかつたから	4	17.0	3	21.0	1	12.0
ほかに条件のよい仕事があつたから	6	26.0	4	28.0	2	25.0
病気・老令・定年のため	2	8.0	1	7.0	1	12.0
結婚のため	1	4.0	0	0.0	1	12.0
育児のため	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	6	26.0	3	21.0	2	25.0

仕事をしていなかった者が過去1カ年間に新たに仕事についた新規就業者は3万3千人で、40年とくらべてほとんど変わらない。全有業者にしめる新規就業者の割合（新規就業者率）は40年の3.4%から3.1%に減少してい

る。これを男女別にみると男子は40年の2.2%から2.4%と増加したが、女子は逆に5.0%から4.0%へと低くなつていることに注目されたい。（表12参照）

表12 新規就業者数

区 分	総 数		男		女	
	43 年	40 年	43 年	40 年	43 年	40 年
有 業 者	1,056	995	610	582	446	413
新 規 就 業 者	33	34	15	13	18	21
新規就業者率(%)	3.1	3.4	2.4	2.2	4.0	5.0

注) 新規就業者率は、有業者数に対する新規就業者の割合である。

仕事をしてきた者が過去1カ年に仕事をやめた離職者は2万2千人で40年の3万3千人に対し1万1千人の減少となつた。その結果、全有業者中にしめる離職者の割合（離

職者率）は40年の3.3%から43年の2.0%へと低下した。（表13参照）

表13 離職者率 (単位 千人)

区 分	総 数		男		女	
	43 年	40 年	43 年	40 年	43 年	40 年
有 業 者	1,056	995	610	582	446	413
離 職 者	22	33	7	9	15	24
離職者率(%)	2.0	3.3	1.1	1.5	3.3	5.8

注) 離職者率は、有業者に対する離職者の割合である。

7 常住地移動

15才以上人口152万8千人のうち、過去1年間に常住地が変わった者は8万3千人（15才以上人口に対する割合は5.4%）であり、このうち県外からの移動者は2万1千人（全移動者の25.3%）となつている。これを40年に比

較すると40年の15才以上人口146万3千人のうち移動者総数は6万8千人（15才以上人口に対する割合4.6%）で、うち県外からの移動者は1万8千人（全移動者の26.4%）である。実数には3千人増となるが率では1.1ポイント少なくなつている。（表14参照）

表14 1年前との常住地の移動および移動理由別15才以上人口（単位 千人）

区 分		総 数						県内間の移動者	県外よりの移動者
		〃	本人就職転職のため	本人転勤のため	家族の就職転職のため	家族転勤のため	その他結婚入学など		
実 数	総 数	83	8	8	6	5	57	63	21
	男	41	5	7	1	0	27	29	11
	女	43	3	1	5	5	30	33	9
割 合 (%)	総 数	100.0	9.6	9.6	7.2	6.0	68.6	75.9	25.3
	男	100.0	12.1	17.0	2.4	0.0	65.8	70.7	26.8
	女	100.0	6.9	2.3	11.6	11.6	69.7	76.7	20.9

常住地移動者8万3千人を年令別にみると15～24才が3万2千人（38.5%）と35才未満で77.1%をしめ、35才以上はわずか1万9千人（22.8%）にすぎない。（表15参照）

1年前の常住地における就業・不就業状態、年令、男女別常住地移動者数

表15（単位 千人）

区 分	総 数	有 業 者					無 業 者					
		総 数	15才～24才	25～34	35～54	55才以上	総 数	15才～24才	25～34	35～54	55才以上	
実 数	総 数	83	52	17	23	10	2	31	15	9	4	3
	男	41	33	8	16	7	2	7	6	0	0	0
	女	43	19	9	6	3	1	24	9	9	4	2
割 合 (%)	総 数	(100.0)	100.0 (62.6)	32.6	44.2	19.2	3.8	100.0 (37.3)	48.3	29.0	12.9	9.6
	男	(100.0)	100.0 (80.4)	24.2	48.4	21.2	6.0	100.0 (17.0)	85.7	0.0	0.0	0.0
	女	(100.0)	100.0 (44.1)	47.3	31.5	15.7	5.2	100.0 (55.8)	37.5	37.5	16.6	8.3